

病害虫発生予察注意報 第1号

病害虫名：コムギ赤かび病

1 発生予想 コムギ赤かび病が多発する恐れがある。

2 対象地域 県内全域

3 根拠

- クロップナビを用いた「コムギ赤かび病感染予測システム」により、コムギ赤かび病菌がコムギに感染する好適条件日、準感染好適条件日が出現している（表1）。
- 北信地域の一部の栽培圃場においても初期病斑が確認された。
- 本年は県内で凍霜害が発生しており、凍霜害を受けた穂は赤かび病に感染しやすい。
- 気象庁の1か月予報（5月30日）では、気温は今後も平年並みで、今後も赤かび病の感染に適した気象条件が続くと予想される。

表1 クロップナビによる感染好適条件の出現日

クロップナビ設置場所	5月28日	5月29日	5月30日	5月31日	6月1日
上田	—	●	—	○	—
伊那	—	●	—	○	—
松本	—	●	—	○	—
千曲	—	●	—	—	—
須坂	—	●	—	—	—

●はコムギ赤かび病の感染好適条件日

○はコムギ赤かび病の準感染好適条件日

*クロップナビとは、

長野県農業試験場とアスザック（株）（本社：高山村）が、イネいもち病の発生予測装置として共同開発した機器で、ピンポイントの気温、湿度、降水量、葉の濡れ時間、土壌水分、日照時間等を観測することが可能な装置。コムギ赤かび病の感染予測については、長野県農業共済組合の協力を得て、降雨、葉の濡れ時間、濡れ時間中の気温との組み合わせから予測し、県内5地点で観測している。



写真1 コムギ赤かび病の初期病徴（右は令和3年の多発生時の様子）

4 防除対策と留意点について

- (1) 開花期から2週間程度が感染しやすく、この期間に曇雨天が続くと多発する。これまで防除を行っていない場合は、直ちに防除を実施する。開花期に防除を行った場合にも、その後降雨が続くようであれば、追加防除（1回目の防除の10～14日後）を行う。
- (2) 凍霜害がみられるほ場では傷口から感染しやすく、また生育が不揃いなほ場では、感染しやすいステージの穂が存在するため特に注意する。
- (3) 今後も、降雨により発病が助長される可能性があるため適期に収穫する。
- (4) 収穫後の穂は水分を含んでおり病原菌が増殖する危険があるため、収穫後はできるだけ速やかに乾燥させる。

(問合せ先)

担当 長野県病害虫防除所 藤永、藤沢

電話 026-248-6471 (直通)

ファクシミリ 026-248-6473

電子メール bojo@pref.nagano.lg.jp